

令和5年度 岳下小学校だより

進んで学び 心やさしく たくましく



岳下っ子だより

令和5年12月22日

どんな2学期だったでしょう

今日で、2学期が終わり、明日から冬休みに入ります。2学期は、子どもたちのどんな成長の姿が見られましたか。言われなくても起きられるようになった子もいるでしょう。小さな声でも自分からあいさつするようになった子、気持ちを切りかえてがんばれるようになった子、みんなの前で発表することができた子、仲直りが上手にできるようになった子、友達と協力して活動できた子、目標を決めて練習に取り組んだ子…等々。大人にとっては大変なことではないかもしれませんが、どれも、その子が日々の小さな成長を積み重ねていった確かな成長の姿です。

学校では、3学期も一人一人の子どもたちの日々の小さな成長を応援していきたいと思います。

共に学び、支え合う



友達と関わり合いながら、一緒に話し合ったり考えたりする子どもたちの姿。友達の考えに触れることで、自分の考えを広げたり深めたりしています。相手のことを思いやり、励まし合う姿も多くなってきました。



自分たちができることを

自分たちに何かできることはないかを考え、よいと思ったことを実行してみる。そんな頼もしい姿も成長の一つです。3学期はどんな姿を見せてくれるでしょう。

<運動フェスティバル・150周年実行委員会>



創立150周年に向けて、6年生を中心として4~6年生で結成された2つの実行委員会です。それぞれの委員会では、「みんなの心に残るものにしよう!」とアイデアを出し合いながら企画・準備を進めてきました。みんなのことを考え行動する頼りになる上学年の姿です。



<4年 安達太良登山お礼の会>



ありがとうございました

安達太良山のことを教えていただいたり、登山の時には案内していただいたりした渡辺茂雄さんと中山大輝さんに何かしたいと考えた4年生。みんなで「お礼の気持ちを伝えるためにはどうしたらよいか」話し合い、準備してきたのがこの会です。心あたたまる会となりました。



調べたことを聞いてもらいたいな



<5年 クリーン活動> 12月20日(水)



活動のきっかけは、学級会で挙がった「通学路にゴミがたくさん落ちているから何とかしたい!」という子どもの声。いざゴミ拾いをしてみると、ビニールやダンボール、たばこ、ペットボトルなどのゴミがたくさん落ちており、あまりのゴミの多さに子どもたちは驚いた様子でした。「ゴミがこんなに落ちているとは思わなかった」「人の目につかないところに捨てられていることが多い」などの気付きから問題意識を高める姿や、「ゴミを拾うたびに二本松がきれいになっていく感じがして気持ちよかった」「誰かのためになっていると思ったらうれしい気持ちになった」など、地域の一員として社会奉仕することの大切さや気持ちよさを感じる姿が見られました。今後は、活動を通して高まった問題意識を大切に、さらに地域のために岳下小学校の自分たちができることを考え、取り組んでいきます。

本に親しむ子どもに

今年度、岳下小学校では読書を通して、豊かな心を育みたいと様々な取り組みをしてきました。その取組の一部をご紹介します。

朝の読書の時間

毎朝 8:00~8:10 の10分間は読書の時間。全校生が登校して、学習の準備や着替えをした後、本を読む。心を整え、耕す大切な一日の始まりです。

読み聞かせ

12月19日~21日の3日間、図書委員会の子どもたちが、絵本の読み聞かせを行いました。「〇年生ならこの本がぴったりだと思うよ。」「12月だからこの本がいいんじゃない?」と話し合いながら、本を選び練習。聞かせてもらっている子どもたちも目を輝かせながら、身を乗り出して聞き入っていました。



ありがとうございます

また、読書ボランティアの菅野清美さんには、本の読み聞かせをしていただいています。あたたかな語りで毎回その学年に合った本を選び、読んでくださっています。子どもたちがとても楽しみにしている時間のひとつです。



子どもたちは、読み聞かせが好きです。これは、小さな子に限ったことではありません。だれかに本を読んでもらったうれしさから、本を読むのが好きになったり、もっと読みたくなったり、だれかに教えたり、読んであげたくなったりします。読み聞かせを通して、人のぬくもりや声のあたたかさを直に感じながら、本の世界に入り込み、心が落ち着いたり通い合ったりすることを感じることができるからなのでしょう。

これが私のおすすめ!~岳下っ子ビブリオバトル大会~

今年より始まった岳下っ子ビブリオバトル大会。5、6年生の各学級での予選を経て、10月23日に4~6年生による準決勝、そして11月22日(水)は決勝大会がありました。準決勝を勝ち抜いた3人のバトラーが、それぞれに推薦する本について、おすすめのポイントを熱く語りました。聞いている子どもたちも真剣そのもの。「おもしろそう、全部読んでみたいな。」「あんなにページがある本を読むなんてすごいなあ。」「上手だなあ、私もやってみたい!」本に対する関心が高まるとともに、上級生への憧れも生まれたようです。



5年 丹野利音 さん



5年 丹治陽斗 さん



あんなに長い本を読むなんて、すごいなあ。



今回のチャンプ本

6年 高野莉子さん紹介

「かがみの孤城」

全部読んでみたくなるな。選ぶのが難しい。

二本松市小・中学生ビブリオバトル大会



二本松市小・中学生ビブリオバトル大会が11月28日に行われました。市内全ての小・中学校から代表が集まり、本の紹介をするこの大会。岳下小学校からは6年の中村実怜さんが代表として出場しました。選んだ本は「ふたり」。「なぜこの本を選んだのか」「私のおすすめのポイントは」...聞いている人たちに読んでもらえるよう、自分の思いをしっかりと届けることができました。

今回ご紹介した以外にも、一人一人記録をつける「読書貯金通帳」、学校司書や各学級や図書委員会での工夫した取組をしています。今後も継続していきたいと思います。

また、二本松三中学区では、毎月11日、23日を、メディアから離れ、「美しい言葉に触れる日」として、共通に取り組んでいます。岳下小学校では、家族で本に親しむ「家読」を奨励しています。ご家族の触れ合いの中に、一緒に親しむ時間をつくってみてはいかがでしょうか。